

四季折々に美しい 箕面の山なみ景観



個人が所有する山麓部の「里山」

四季折々に美しい山なみ景観は、心の安らぎと憩いの場を与えてくれており、市民アンケートでは約98%の市民が山のみどりを守っていくべきだと答えています。

国や府・市などの行政が山林を所有していると思われがちですが、まちから眺める山麓部の山林の約80%は個人が所有する私有林です。

山に経済的な価値がなくなった現在、多くの山には人の手が入らず放置されており、山林所有者は様々な悩みをかかえています。

「自分の山がどこにあるかわからない」、「高齢化や遠隔地に住んでいるので山に行けない」、「倒木などで山が荒れている」、「勝手にゴミを捨てられて困っている」、「急傾斜地なので土砂災害が心配」、「シカやイノシシの害が心配」、「所有権を放棄したい」など・・・

公共の財産として保全すべき「里山」

森林は大気の浄化、水源かん養、土砂災害の防止・土壌の保全、文化・レクリエーションの場など、様々な公益的な役割を果たしており、山すそに住む私たちに良好な環境を提供してくれています。

自然災害から私たちの生活を守るためにも、森林が持つ公益的な機能を最大限に発揮させる必要がありますが、山林所有者だけに保全の責任を求めることは困難です。私たちの公共の財産として、山林所有者だけでなく行政や市民の三者協働により、四季折々に美しい箕面の山なみ景観を守り、育て、活かしていくべきではないでしょうか！

森を育てる 鳥と植物の関係

鳥たちは小さな体で寒い季節を生き抜くために、冬の森で様々な食物を探します。冬に開花するツバキなどの花蜜や残された木の実、鳥たちにとって、虫たちがいないこの時期の重要な食べ物です。

自分で移動できない植物の側から見れば、鳥たちは、花粉やタネ(種子)を運んでくれる大切な存在です。鳥たちは、木の実を丸のみにして栄養をとりますが、硬いタネ(種子)は消化できないので、飛んでいった色々な所で排出されます。フンと一緒に地面へ落ちたタネ(種子)は、やがて芽を出します。森を育てる、鳥たちと植物の関係を観察しましょう！

落葉して観察しやすい冬は、バードウォッチングに適した季節です。しっかりと暖かい格好をしてお出かけください。
※()は植物名



ヒヨドリ(ツバキ)



メジロ(カナメモチ)



シジュウカラ(ナンキンハゼ)



ヤマガラ(エゴノキ)



エナガ(ナンキンハゼ)



ヒガラ(スギ)



ルリビタキ♀(ムラサキシキブ)



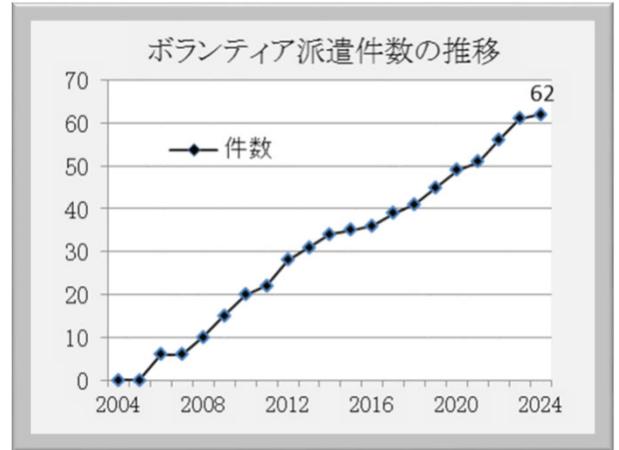
ウソ(ウツギ)

今冬の民有林の山林整備ボランティア派遣活動が始まりました。

高齢で体力がない、今は遠くに住んでいるなど、さまざまな理由で、山へ行けない山林所有者(自然緑地指定同意者)に代わって、みのお山麓保全委員会では、山林整備ボランティアを派遣しています。

2004年に始まったこの制度は、今年度で20年が経過、派遣要請件数は、年々増加しています(右図参照)。2023年度の実施件数は61件で、延べ591人のボランティアが活動に参加しました。2024年度の派遣要請件数(2月申請と8月申請の合計)は62件で、昨年度より1件増加しました。

整備活動は、「みのお里ぶら・杜の会」「箕面の森のきこり隊」「みのおフォレストーズ」「箕面マウンテンバイク友の会」の4団体が窓口となり、ボランティア派遣サポート養成講座の修了生などにも参加を呼び掛け、10月後半から来年3月後半まで実施されます。



《山とみどりのフェスティバル》「体験フェア」「生物多様性研究フォーラム」が開催されました。

11月3日(祝)、箕面公園瀧安寺前広場をメイン会場に、「山とみどりのフェスティバル・体験フェア」が開催されました。前日の豪雨から一転、この日はさわやかな秋晴れに恵まれ、大滝までの散策を楽しむ人やハイカーなど約2,600人が来場、外国人の姿も多数見られました。より多くの人々に箕面の豊かな自然に触れてもらうことがこの催しの目的。瀧安寺前広場には24団体、駅前ステージに1団体の計25団体がブースを出展し、活動紹介のパネル展示、自然素材を使った工作や丸太切り体験などが行われました。

ステージでは、森の音楽会のほかに、林野庁箕面森林ふれあい推進センターのみなさんによる紙芝居、箕面観光ボランティアガイドの「滝道クイズ」などが行われました。会場には原田市長も来場、「滝ノ道ゆずる」くんも登場し、おおいに盛り上げました。

11月10日(日)、生物多様性研究フォーラム「みんなで考えよう! 災害に強い森づくり」を箕面船場生涯学習センターで開催、市民の方など51名が参加しました。豊かな自然の恵みを受取る一方で、急峻な山なみに深い谷が刻まれ、また断層が多く崩れやすい地質の特性から、箕面は、これまでたびたび大きな自然災害を受けてきました。近年の地球規模での気候変動により、これまで以上に災害・洪水被害の激甚化・多発化が危惧されている中で、持続可能な地域づくりのために生態系を活用した防災・減災を推進することが、山麓保全の重要な目的となっています。



【講演】 京都産業大学 生命科学部 産業生命科学科 准教授 西田貴明 氏

【報告】 ビオトープ管理士会近畿支部長 池口直樹 氏、 大阪府北部農と緑の総合事務所 森林課 中尾隆暉氏、みのお山麓保全委員会事務局 高島文明 氏



講演と報告に続いて、公益社団法人大阪自然環境保全協会の常俊容子氏の進行でディスカッションが行われました。講演や報告を通して、参加者の多くは、グリーンインフラやNbS(自然に根差した解決策)の取り組みが、自然災害に対する地域づくりと生物多様性の保全の両立に貢献し、また地域の社会的な発展にも寄与するものであることを認識しました。行政と市民の協働の取り組みとして何ができるのか、どのように進めるのがよいのか、今回のフォーラムを契機に議論が深まっていくことが期待されます。

※当日は発表資料は、山麓保全委員会のホームページに掲載していますので、ご覧ください。

滝道 森のふれあい広場で「みのおFMタッキー816」公開放送を開催しました。

森のふれあい広場(滝道足湯横:休業中)からのみのおFMタッキー816の公開放送は、毎年、新緑の春、夕涼みの夏、紅葉の秋など、年に3~4回開催され、番組の中で、箕面の山や森を守り、育て、活かすといった活動されている市民団体や個人の方が出演して、活動内容の紹介やイベントのお知らせなどを行っています。今回は、箕面の山パトロール隊事務局長の村上竜太さん、箕面ビジターセンター自然解説員長井正樹さん、中高大連携森林学習プロジェクトの馬場絢子さんと齋藤葵さんに出演いただき、日ごろの活動のPRのほか、直近のイベント案内や箕面の山の紅葉の見所などの話をさせていただきました。

森の案内所の南側壁面には、箕面の野鳥を中心にした写真、東面には明治の終わりから大正時代の初めに箕面山にあった「箕面動物園」の様子、西面には箕面の山の中に設置されている赤外線カメラに写る野生動物の写真などを掲載しています。お立ち寄りの際はぜひご覧ください。



箕面の山パトロール隊
村上竜太さん



ビジターセンター自然解説員
長井正樹さん



中高大連携森林学習プロジェクト
外馬場絢子さん 齋藤葵さん

エキスポの森で特定外来生物「ウシガエル」の駆除活動を実施しました。



エキスポの森「花の谷」ビオトープには、トノサマガエル、モリアオガエル、ミズカマキリといった準絶滅危惧種(大阪府レッドリスト)のほか、貴重な生き物が生息しています。一方で、口に入る大きさの動物であれば何でも捕食するため、在来のカエルや水生昆虫にとって天敵ともいえる特定外来生物のウシガエルも生息していることから、10月10日、ウシガエルの駆除活動を行いました。駆除活動は2018年から継続して実施。

特定外来生物の多くは、人間の都合により持ち込まれたものとはいえ、生態系等へ被害を及ぼす、または恐れがあるものは、適切な駆除が必要となります。今回は、明治の森箕面自然休養林管理運営協議会を構成する市民団体5名(箕面観光ボランティアガイド、箕面ナチュラリストクラブ、清水谷をまもる会、箕面生物多様性会議・いきもの会議)と箕面森林ふれあい推進センター(林野庁)4名、みのお山麓保全委員会事務局1名、計10名で、網を使って、ウシガエルのオタマジャクシ205匹、成体4匹を捕獲しました。

明治の森箕面自然休養林管理運営協議会では、市民が中心になり行政と連携し生物多様性の保全と市民に親しんでもらえる環境整備に取り組んでいます。

2025年3月20日(祝)「こもれびの森」の植樹活動を行います。

2018年9月の台風により、スギ・ヒノキの人工林を中心に大規模な風倒被害を受けた「こもれびの森(箕面市有地)」では、翌年、大阪府が作業道を作り、大型重機を入れて風倒木を搬出し、被害地周辺に防鹿用の金柵を設置するなどの復旧事業に着手。みのお山麓保全委員会では、生活環境保全林としての機能回復を目指して、2020年3月から市民を中心とした植樹活動を始めました。2025年3月実施予定の植樹活動で6年目となります。

実施月	植樹本数	樹種
2020年3月	83	イロハモミジ、クヌギ、コナラなど
2021年3月	245	コナラ、コバノミツバツツジ、ムラサキシキブなど
2022年3月	129	ヤマザクラ、ミツマタ、エノキ、タニウツギなど
2023年3月	127	ミツマタ、アセビ、エノキ、ガマズミ、ムラサキシキブなど
2024年3月	110	クヌギ、ウリハダカエデ、アセビ、ヒサカキなど
計	694	



2024年3月の植樹の様子

これまでに植樹した苗木は、金柵内でシカの侵入がないエリアや、金柵外の作業道沿いでも、シカが嫌いなミツマタやアセビは順調に根付いているものの、路肩の一部崩落で金柵が破損してシカの侵入が容易なエリアなどでは、ヤマザクラ、カエデなどでシカに食害が著しく、水不足もあって多くが枯死してしまいました。

そこで今回は、そうした枯死木を、荒地に強い先駆性樹木やシカが好まない樹木への植え替えなどを検討しています。



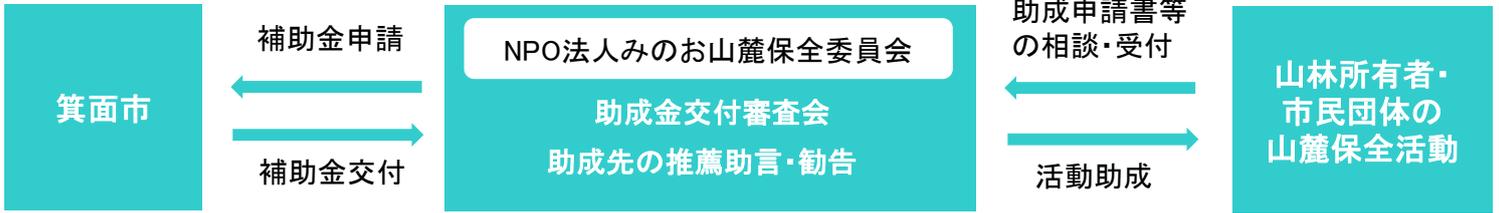
2024年6月、路肩の一部崩落

2025年度「みのお山麓保全活動助成金」2月期の募集

みのお山麓保全活動助成金は、四季折々に美しい箕面のみどり豊かな山麓を守り、育て、活かすために、山林所有者や市民の活動を応援(助成)する仕組みです。毎年、前期(2月)後期(8月)にその年度の活動を募集しています。

NPO法人みのお山麓保全委員会は、中間支援組織として、山林所有者や市民の活動支援や助成金を活用した活動の相談や助成申請の受付などの事務を行っています。お気軽に事務局までご連絡ください。

《みのお山麓保全活動助成金の仕組み》



■申請受付期間:2月1日(土)~28日(金) ■対象となる事業期間:2025年4月1日~2026年3月31日

■助成金額:1件あたり25万円以内

■山林所有者への助成 箕面市環境保全条例により「自然緑地」として指定された山林において、その所有者が里山の管理を行う場合の助成金額は、土地登記簿面積1㎡あたり25円と計算します。(上限25万円)

※助成申請のためには、自然緑地等指定同意書を提出していただく必要があります。

山麓保全活動の助成は箕面市の2025年度の補助金予算の範囲内で行います。このため、全体の応募件数によっては、助成の要件を満たす団体・活動であっても必ずしも助成の対象とならないことがあります。また、助成金の額は助成の対象となる活動にかかる経費であっても、必ずしも申請 どのりの額を助成できるものではないことをご承知ください。



2024年度「みのお山麓保全活動助成金」の助成実績

■山林所有者(箕面市環境保全条例による自然緑地指定同意書提出者)による活動を助成

件数:90件、筆数:251筆、面積:459,904㎡、金額:9,248,800円、山林整備サポート要請件数:62件(前年より1件増)
新規自然緑地同意 件数:0件

■市民団体等による活動を助成 件数:18件、金額:1,971,000円

活動団体名	助成金額	活動団体名	助成金額
1. 箕面の山パトロール隊	¥250,000	10. 箕面の森の音楽会実行委員会	¥180,000
2. 箕面だんだんクラブ	¥147,000	11. 箕面生物多様性会議(生きもの会議)	¥110,000
3. 杜の会	¥66,000	12. 箕面ナチュラルリストクラブ	¥157,000
4. 箕面の森のきこり隊	¥27,000	13. 外院の杜クラブ	¥10,000
5. みのおフォレスターズ	¥95,000	14. 箕面森遊びの会	¥56,000
6. とんど山桜園の会	¥135,000	15. Minoh Architecture Project(MAP)	¥10,000
7. みのおエコクラブ	¥119,000	16. しおんじ山の会	¥119,000
8. かやの中央まち育て交流会	¥250,000	17. 箕面マウンテンバイク友の会	¥38,000
9. みのお森のふれあい広場運営委員会	¥132,000	18. 中高大連携森林学習プロジェクト	¥70,000

NPO法人 みのお山麓保全委員会

〒562-0001箕面市箕面1-2-6 箕面駅前ビル3階301号

電話&FAX:072-724-3615 携帯電話:090-8926-3615

メール:yama-nami@yama-nami.net

ホームページ:www.yama-nami.net(検索:山なみネット)

*箕面の山麓保全情報のポータルサイト「みのお山なみネット」

